

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 36 (年4回発行)

■発行日 平成17年3月15日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988



町会議員との「まちなび」懇談会

二月二十一日、旧公民館和室で、三春まちづくり協会主催による町会議員との「まちなび」懇談会が開催されました。協会からは、三役と各部長、副部長、旧町各部長が出席し、これからの三春町をどうしていくのか、今後のまちづくりのあり方などについて意見交換を行いました。
合併しない三春町の行財政の課題から、小中学生の通学時の安全対策や積雪時の除雪作業など地域活動の具体的な課題まで真剣な話し合いがなされました。

取り組みのねらい

① いままで協会の活動では直接議員との接点は薄かったが、住みよい三春のまちづくりを考える共通の目的からこのような場は必要であると考えて開催した。

② 今年度はごみの問題、町の財政の問題そして高齢者の福祉の問題などについて

いて勉強会を開催し、課題解決型の取り組みを行ったが、我々が持っている情報も少なく十分な取り組みとなっていない。議員の方々の持っている情報をもとに意見交換を行い、成果のある活動にしていきたい。

幕田協会長の司会で、懇談会が進められました。様々な意見や質問が出されましたが、そのうちのいくつかを掲載します。

■登下校時の子どもの安全の問題について

(協会側)

・地域全体で、子どもを守るのがわれわれ大人の役目。
・青少年育成部会で、次年度(六月頃)に、子どもの安全に関する勉強会をする予定。
・通学路には、地域の目が届かない(全く人家のない)場所もある。
・学校との協議も必要。
・自主防災会、婦人会、消防との連携も必要。
・地域の中にも心配な人はいるが、色分けをするのではなく、地域として関わるのが大事。

(町会議員)

・まず、地域の連帯感を強めること。
・対処療法では永続的效果は望めない。一番効果があるのは、周りのひとの目。
・町や議会でも対処できる問題ではない。地域で自主的に取り組んでほしい。
・昨年十二月に、三春町青少年問題協議会を立ち上げた。
・犬の散歩をする人や買い物をする人が腕章をつけるなど、自然体での見守りはできないか。
・見守り隊のようなものができれば、警察でも協力したいと考えているようだ。

・冬期間だけでも集団下校をするように学校にお願いしたい。
・子は国の宝。地域の子どもをみんなで守るよう、町全体で取り組むべき。
・基本は家庭づくり、家庭教育を話し合っていきたい。

■町村合併について

(協会側)

・田村市誕生に伴って、田村郡はどうなるのか。町村合併は？広域行政は？情報を提供していただきたい。
・住民が検証できるような分かりやすい資料がほしい。
・今後、議員との話し合いがどんどんできるようになっていけば良いと思う。
・この次の機会にまた懇談会を開催したい。出前懇談会も活用していく。

(町会議員)

・広域行政については、基本的には変わらない。町村合併は三月で解散、市町会となるが、運営、負担金は今までと変わらない。ここから先どうするかが大変。財政も大変だが、大きな目標をかかげて、町民、議会、行政、みんなで連携をとってやっていく。
・特例法での合併は見送ったので、時間はある。この機会にもう一度考え直すチャンスだ。
・住民投票が出発点になればよかったと思う。
・自分の地域は自分たちが作るという自主自立の地域づくりの心構えがほしい。
・行財政政策能力の向上が必要だ。
・住民の意思を反映した形で、合併しないことを決定した。
・「貧乏」を覚悟してもやっついていくのが三春のいいところではないのか。
・ピンチはチャンスと考え、悲観しないでまちづくりをする。

■編集者の視点

・三春には観光のポテンシャルがある。
・合併しないと決めたわけだから代償は払わなければならない。
・今日のような会議を三春のいたるところで開いてもらいたい。

・合併懇談会の際の資料に十五年先までのシミュレーションも入っていたが、意味の説明が不足していた、分かりにくいものだった。
・今後、出前懇談会などで、一点点的をいって懇談会をしかけていくべき。それが情報公開だ。積極的に出前懇談会を使ってほしい。

□ まちづくり協会と議員とのこの様な話し合いの場は初めての企画でしたが、全体としてどうでしたか。
■ それぞれ率直な発言ができて、はじめての試みとしては、まあまあというところでしょうか。
□ 主催側では「これからの三春町をどうするのか、そのためにはどのようなまちづくりをすべきなのか」を視点にしています。したが、その点についてはどうでしょうか。
■ 十分な意見交換はできませんでしたが。
□ これからも継続して取り組む必要があるということですか。
■ 次回からは、テーマを決めてのしぼった意見交換会とした方が効果が上がるのではないのでしょうか。
□ 合併しない三春町のまちづくりに関して、合併論議の経緯もふくめていろいろと意見がだされたいが。
■ 「当面合併しない」という結論をだしたので、これからどういう三春町にしてゆくの、具体的なビジョンを示して欲しいですね。
□ 合併しないのだから考える時間はたっぷりあるという議員の方もいました。

■ 平成十四年十一月からの二年間で、どのような基本方針や具体的政策が策定されたのかをもう少し聞きたかったです。
□ 町や議会で作成する資料は分かりにくいという指摘も多かったのですが、これからのまちづくりは町民と議会と町が協働して取り組まなければならない。分かりやすい情報提供と意志の疎通が大切だと思います。
□ 学校児童・生徒の通学時の安全について、二つ問題提起がありました。
■ 一つは、登下校時の子供を守る活動が必要であるということ。もう一つは、大雪の際、地域ぐるみで通学路の除雪活動が必要ではないかという問題提起です。
□ 直接の動機は違うようですが、子供たちの安全を守るため、地域の役割としてどう活動すべきかという点でしょうか。
■ 「子供は地域の宝」という話が出ました。だいたいな子供たちを守るには、親は当然のこと、行政や地域社会にも責任があります。これからは、地域住民の理解と協力の意識が大きな課題となると思います。

